

CASBEE® 京都-新築

標準システム

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-京都-建築(新築)2018年版 | 使用評価ソフト: CASBEE京都-新築2018 (v.1.0)

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	(仮称)河原町五条計画	階数	地上10階
建設地	京都市下京区五条通河原町上る安土町612	構造	S造
用途地域	商業地域, 防火地域	平均居住人員	400 人
地域区分	6地域	年間使用時間	8,760 時間/年(想定値)
建物用途	事務所, ホテル, 工場, 等	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2021年4月 予定	評価の実施日	2019年11月27日
敷地面積	800.79 m ²	作成者	白井 大輔
建築面積	659.07 m ²	確認日	2019年11月27日
延床面積	5,838.74 m ²	確認者	白井 大輔



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)	2-2 ライフサイクルCO ₂ 温暖化影響チャート	2-3 大項目の評価(レーダーチャート)
<p>BEE = 1.2 ★★★★★</p> <p>S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★</p>	<p>★☆☆☆☆ 30% ☆☆☆☆☆ 60% ☆☆☆☆☆ 80% ☆☆☆☆☆ 100% ☆☆☆☆☆ 100%超: ☆</p> <p>標準計算</p> <p>①参照値: 100% (184 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>②建築物の取組み: 78% (46 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>③上記+②以外の: 78% (46 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>④上記+: 78% (46 kg-CO₂/年・m²)</p> <p>このグラフは、LR3中の「地球温暖化への配慮」の内容を、一般的な建物(参照値)と比べたライフサイクルCO₂排出量の目安で示したものです</p>	

2-4 中項目の評価(バーチャート)		
<p>Q 環境品質 Qのスコア = 2.8</p>		
<p>Q1 室内環境 Q1のスコア = 3.2</p>	<p>Q2 サービス性能 Q2のスコア = 2.6</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内) Q3のスコア = 2.6</p>
<p>LR 環境負荷低減性 LRのスコア = 3.4</p>		
<p>LR1 エネルギー LR1のスコア = 3.8</p>	<p>LR2 資源・マテリアル LR2のスコア = 3.3</p>	<p>LR3 敷地外環境 LR3のスコア = 3.1</p>

3 設計上の配慮事項		
<p>総合</p> <p>建築材料において化学汚染物質に配慮した建材を採用し、昼光率確保に努めるなど居住者の住環境に配慮し、かつ再利用可能な部材やエコマーク認定資材を採用するなど地球環境に寄与した設計をしている</p>	<p>その他</p> <p>LED照明設備の採用</p>	
<p>Q1 室内環境</p> <p>建築基準法を満たしており、かつ建築基準法規制対象外となる建築材料をほぼ全面的に採用している。さらにホルムアルデヒド以外のVOCについても放散量が少ない建材を全面的に採用している。</p>	<p>Q2 サービス性能</p> <p>リフレッシュスペースが十分確保されている</p>	<p>Q3 室外環境(敷地内)</p> <p>特に無し</p>
<p>LR1 エネルギー</p> <p>BPI_m=0.86、BEI_m=0.73</p>	<p>LR2 資源・マテリアル</p> <p>再利用できるユニット部材を用いるなど部材の再利用可能性向上に努めている</p>	<p>LR3 敷地外環境</p> <p>LCCO₂=78%</p>

■ CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■ Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Built Environment Efficiency (建築物の環境効率)
 ■ 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生涯の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■ 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される